

8月8日 使徒言行録 20章 17～38節 今日の説教から  
説教題：「ああ、無情なるこの世界」

今日の説教題は、有名なミュージカル「レ・ミゼラブル」「ああ無情」からつけさせて頂きました。私はミュージカルではなく映画でしか見たことがないのですが、レ・ミゼラブルの舞台は19世紀、フランス革命の後にナポレオンが皇帝として二度目に即位した時代の物語です。主人公のジャン・バルジャンはパン一個を盗んだことによって窃盗の罪で5年間、数度にわたる脱獄未遂を含めて19年間投獄されることとなりました。そんな彼は釈放された後に助けられた教会で、窃盗の罪を重ねます。仮釈放の身分で、しかも脱獄未遂によって危険人物として監視されていた主人公は警察に捕まりますが、しかし神父の言葉と施しによってその罪を赦され、悔い改めへと導かれました。彼は「ジャン・バルジャン」としての過去をすべて消し去り、人のために生きることを決意しました。レ・ミゼラブルは貧困層と富裕層、悪人と善人、法に従う正義と倫理に従う正義、そして神様に従う正義など、多くの対比によって市民革命の時代の悲惨さと、当時の人々が拠り所としていた「神様」が描かれていく作品です。

この作品の前半部分では、だれもが弱者を食い物にしようと目をぎらつかせ、正直者は搾取されていく、厳しい現実が描かれていました。そういう時代だった、そういう国だったと言うことが出来るほど、19世紀のフランスだけが特別だったわけではありません。私たちの生きる現代社会、日本においても詐欺や搾取はありますし、イエス様の時代、使徒たちの時代においても善良な羊を狙う狼のような人々が大勢いました。その中でもパウロは、「狼から羊へと変わった」珍しい経験の持ち主です。

今日の個所でパウロは、自分が去った後の教会のことを心配していました。「わたしが去った後に、残忍な狼どもがあなたがたのところへ入り込んで来て群れを荒らす」、またキリスト者の中からも「邪説を唱えて弟子たちを従わせようとする者が現れる」ことを心配していました。いわゆる偽教師や偽使徒と呼ばれる人々を警戒していたのですが、それはまさにマタイによる福音書10章でイエス様が警告していたように、「狼の群れに羊を放り込む」というたとえの実現です。

そして、パウロはこの告別の説教をイエス様の「受けるよりは与える方が幸いである」という言葉によって締めくくりました。パウロは多くの教会を作り、多くの地域を巡り、エルサレム教会のために献金を集めました。それに加えて、パウロ自身もテント職人としての仕事によって、多くの献金を捧げています。これらの捧げ物が、すべてイエス様の「受けるよりは与える方が幸いである」という言葉に従ったものであると語っています。イエス様は、自分の人生のすべてを私たち人間にために与え尽くしてしまった方です。神様の御心を実現するために、その人生を使って御言葉を告げ知らせ、その命をもって十字架の贖いを実現させ、復活し、昇天した後も私たちに関わってくれています。私たちと神様をつなぎ、私たちすべての教会の頭となり、私たちの祈りを神様へと届けてくれているのです。

私たちは、イエス様から「与える」喜びを教えてもらっています。献金によって、奉仕によって、教会を支え、神様への信仰を示す喜びを教えられています。同時に、私たちは「受け取る喜び」の大きさも教えてもらっているのです。ついつい何かを遠慮してしまうのが、私たちの謙遜という美德であり、素直になれない悪い所もあります。相手からの愛を受け止めることもまた愛であり、私たちがイエス様から教えられている大切な愛の業の一つです。私たちも、この無情な世界の中で、愛を実現するものとしての使命を神様に期待されています。その神様の愛に感謝をしながら、今週一週間の、これから歩みを共に進めていきましょう。

## 今日の説教箇所：使徒言行録 20 章 17～38 節

- 17:パウロはミレトスからエフェソに人をやって、教会の長老たちを呼び寄せた。長老たちが集まって来たとき、パウロはこう話した。「アジア州に来た最初の日以来、わたしがあなたがたと共にどのように過ごしてきたかは、よくご存じです。すなわち、自分を全く取るに足りない者と思い、涙を流しながら、また、ユダヤ人の数々の陰謀によってこの身にふりかかってきた試練に遭いながらも、主にお仕えしてきました。役に立つことは一つ残らず、公衆の面前でも方々の家でも、あなたがたに伝え、また教えてきました。
- 21:神に対する悔い改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰とを、ユダヤ人にもギリシア人にも力強く証ししてきたのです。そして今、わたしは、“靈”に促されてエルサレムに行きます。そこでどんなことがこの身に起こるか、何も分かりません。ただ、投獄と苦難とがわたしを待ち受けているということだけは、聖霊がどこの町でもはっきり告げてくださっています。しかし、自分の決められた道を走りとおし、また、主イエスからいただいた、神の恵みの福音を力強く証しするという任務を果たすことができさえすれば、この命すら決して惜しいとは思いません。そして今、あなたがたが皆もう二度とわたしの顔を見ることがないとわたしには分かっています。わたしは、あなたがたの間を巡回して御国を宣べ伝えたのです。
- 26:だから、特に今日はっきり言います。だれの血についても、わたしには責任がありません。わたしは、神の御計画をすべて、ひるむことなくあなたがたに伝えたからです。どうか、あなたがた自身と群れ全体とに気を配ってください。聖霊は、神が御子の血によって御自分のものとなさった神の教会の世話をさせるために、あなたがたをこの群れの監督者に任命なさったのです。わたしが去った後に、残忍な狼どもがあなたがたのところへ入り込んで来て群れを荒らすことが、わたしには分かっています。また、あなたがた自身の中からも、邪説を唱えて弟子たちを従わせようとする者が現れます。だから、わたしが三年間、あなたがた一人一人に夜も昼も涙を流して教えてきたことを思い起こして、目を覚ましていなさい。そして今、神とその恵みの言葉とにあなたがたをゆだねます。この言葉は、あなたがたを造り上げ、聖なる者とされたすべての人々と共に恵みを受け継がせることができるのです。わたしは、他人の金銀や衣服をむさぼったことはありません。ご存じのとおり、わたしはこの手で、わたし自身の生活のためにも、共にいた人々のためにも働いたのです。あなたがたもこのように働いて弱い者を助けるように、また、主イエス御自身が『受けるよりは与える方が幸いである』と言われた言葉を思い出すようにと、わたしはいつも身をもって示してきました。」このように話してから、パウロは皆と一緒にひざまずいて祈った。人々は皆激しく泣き、パウロの首を抱いて接吻した。特に、自分の顔をもう二度と見ることはあるまいとパウロが言ったので、非常に悲しんだ。人々はパウロを船まで見送りに行った。